

会 議 録

会議名	令和元年度第2回三郷市在宅医療・介護連携推進協議会
日 時	令和元年9月26日（木） 13時30分～14時20分
会 場	健康福祉会館501・502会議室
参加者	<p>【会 長】谷口 聡</p> <p>【副会長】秋葉 明</p> <p>【委 員】阿部委員代理（瀬戸副所長）、猪瀬 茜、榎本 隆、海老原 英之、柴田 奈月、長島 進一、藤井 なほ美、前田 紗都美、矢口 賢治、吉寄 太郎</p> <p>【医師会事務局】安保 順子</p> <p>【事務局】</p> <p>ふくし総合支援課：齋藤 衣子、五十嵐 順、元井 隆幸、八巻 絢子</p> <p>長寿いきがい課：原山 千恵</p> <p>国保年金課：富山 誠</p>
内容	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）課題への取り組み</p> <p>①薬・薬局を中心とした連携【資料1】</p> <p>3 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修部会からの報告【資料2】 ・広報・啓発部会からの報告【資料3】 ・三郷市在宅医療・介護連携サポートセンター報告【当日資料】 ・第55回日本理学療法学会合同学術大会・第7回日本地域理学療法学会学術大会でのパネルディスカッションへの参加について【資料4】 <p>4 連絡事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の会議日程 令和2年2月6日（木）13：30～ <p>5 閉会</p>
決定事項	2（1）①について→了承
令和元年度第2回三郷市在宅医療・介護連携推進協議会	
1. 開会	
市事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 ・以後の進行を谷口会長にお願いする。
谷口会長	第2回三郷市在宅医療・介護連携推進協議会を開催する。具体的な

	話を進めていくことになる。次第に沿って進行していく。
2. 議題（1）課題への取り組み	
①薬・薬局を中心とした連携【資料1】	
谷口会長	前回の協議会で海老原委員を中心にして検討を依頼した。海老原委員から経過の報告をお願いします。
海老原委員	<p>前回の協議会において、薬局薬剤師として外来患者に対する介護との連携が課題として挙げられた。外来患者が介護認定を受けているのか、ケアマネジャーが付いているのか、もわからない。全国の各地域では「連携シート」というものを使っていることがわかった。その原案を秋葉副会長から提示していただき、それをもとに検討した。最終的にできたものが今お配りしている中に10面で作られた三郷市在宅医療介護連携シートというものになった。これはシール式になっており、居宅介護支援事業所名と連絡先を記入する様式で、事業所に連絡ができれば、担当者が分かる形式になる。お薬手帳の裏表紙に貼って利用する。かかりつけ薬剤師のシールが貼ってあり裏表紙に貼れない場合は、裏表紙内側を利用する。</p> <p>初回はケアマネジャーが本人の了解を得て貼る。お薬手帳の更新時には薬局薬剤師が貼り、事業所名と電話番号を転記する。</p> <p>事務局から各事業所に印刷済みのシール5枚と説明文を送付する。</p> <p>薬剤師会に入っていない薬局や、市外の事業所利用者もいるため、市ホームページやMCSからダウンロードできるようにする。</p> <p>この取組みについては市外にも周知していく。</p> <p>1月には居宅介護支援事業所と薬局に運用状況をアンケート調査し、2月の協議会にて報告する予定である。</p>
谷口会長	補足はあるか。
秋葉副会長	介護支援専門員連絡協議会の運営委員にも報告しており、特に意見は無かった。初回はケアマネジャーが貼るとのことだが、事務局で印刷した物を配ってもらえれば、わざわざ自分たちで印刷しなくてもいいので、取組みやすいと思う。11月19日に介護支援専門員連絡協議会の定例会があるので、会員の皆さんにはそこで周知をするのと、なるべく機会があればご案内していく、ということでやっていこうと思う。私は必ず利用者に説明して貼る予定でいるが、他のケアマネジャーがどれくらい活用してくれるか、というのはまたアンケートで把握したい。
谷口会長	<p>質問・意見はあるか。前田委員はいかがか。</p> <p>これを導入することにより、医療職側がケアマネジャーを把握する</p>

	スピードがとても早くなる可能性が高い。各病院にもこの取組みを周知していただけるとよい。
前田委員	わかりました。
谷口会長	いつからスタートできるか。
市事務局	10月中には各事業所、薬局に配布予定。
谷口会長	他に意見はあるか。では、やってみることとする。 議題は以上になる。次は報告に移る。
3 報告 ・研修部会からの報告【資料2】	
谷口会長	猪瀬委員から研修部会の報告をお願いします。
猪瀬委員	今年度は3回開催する。明日第1回を予定しており、50名枠のところ60名の応募があった。セラピストからの手厚い指導がある。11月11日の第2回は歯科医により実際にVE（嚥下内視鏡）を実施する。第3回のフットケアは事前に先生への質問や相談を写真等で提出し、それにお答えいただきながらの実習を予定している。 第2回・第3回に関しては定員が多いので、運営母体が同じ市外の事業所にも周知と参加ができればいいのではないかという意見があり、市内の事業所の申込みに余裕があれば市外からも申込みを受け入れる予定である。3回とも共通の内容のアンケートを実施予定で、次年度の研修に生かしたい。参加者に記念品が何かあったほうがいいのではないかという意見があり、参加するたびにスタンプを押す参加者証というかたちで決まった。
谷口会長	質問・意見はあるか。 (質問・意見なし) また結果の報告をお願いします。次の報告に移る。
・広報・啓発部会からの報告【資料3】	
谷口会長	吉寄委員から広報・啓発部会の報告をお願いします。
吉寄委員	今回の流れは私から発案させていただいた。まず、相談の入口が分からない方が多いと思い、「医療や介護が必要になったらどうしたらいいの」というテーマで開催する。開催は圏域毎にという意見があったが、今回は第1圏域から第3圏域で1か所、第4圏域から第6圏域で1か所の計2か所で開催する。内容は事例を出しながら医療と介護をどのように在宅で受けていくかをわかりやすく説明する。後半は各圏域に分かれ、各地域包括支援センターの担当者が質疑応答に対応する。今年度はこれをやらさせていただいて、これは決定ではないが、2年目は実際どういうサービスを受けられるのか、こういった内容でやる

	<p>のかの詳細をやり、3年目でACPのような内容をやるといったサイクルで開催していけると、毎回参加して下さるかたの理解が深まっていくと考えている。来週にもう1回部会を開催予定。 (講師役の専門職を紹介。)</p>
谷口会長	質問・意見はあるか。
吉岨委員	研修部会と一緒にアンケートをとり、次年度に繋げていけるように考えている。
谷口会長	もう申込みは始まっているか。申込みはあったか。
市事務局	数名。
谷口会長	定員が40と50か。関係がある団体等に宣伝をお願いする。
市事務局	了解した。
秋葉副会長	市民向けのため、元気塾に参加しているような元気な方々に案内はしているのか。
市事務局	これから元気塾参加者へ周知する。まだ市広報でしか案内していない。各方面へのチラシ配布は、これから実施したいと考えている。
谷口会長	お願いする。
海老原委員	質問ではないが、先日認知症サポーター養成講座を担当させてもらった時に、埼玉県資料に則って講座を進めていくが、最終的に「地域包括支援センターに相談してください」という内容になっている。参加者のアンケートの中では「地域包括支援センターはどこにあるのか」とか「よくわからない。もっとアピールしたほうがいい。」という意見をすごくいただいていたので、今回周知できたらすごくいい機会になると感じた。
谷口会長	長島委員は参加するのか。
長島委員	私は出席する。
谷口会長	確かに、患者のほとんどが地域包括支援センターがどこにあるのかわからない。「すぐ裏ですよ」という感じで地域包括支援センターみずぬまを紹介することが多い。
秋葉副会長	けっこう知らない人が多い。電話で市に掛けてきて地域包括支援センターに繋げているのか。
元井係長	実際に市に電話が掛かってくるのは、病院のほうで介護の申請をしたほうがよい、ということと言われ、どうしたらいいのか、という問い合わせが多い。申請書類は市に出していただいて、その後の相談等は地域包括支援センターでできる、というような案内をしている。各担当のセンターはこちらでお調べしてお伝えしている。
・三郷市在宅医療・介護連携サポートセンター報告【当日資料】	

医師会事務局	<p>当日配布資料に沿って説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の登録数 37 名、患者登録 317 名で増えていない。これは、登録がなくてもバックベッドが使えることになったため。在宅支援ベッド使用 4 件 ・相談件数 令和元年 9 月 20 まで 286 件。内容は資料の通り。 ・MCS について利用延べ人数 333 名。 ・病院・医療機関・歯科・居宅訪問介護・訪問看護等で若干利用者が増えている。 ・緩和ケア研修は 2 回に分けて開催予定であり、周知済。ACP 研修会はまだ広報していない。 ・9 月 19 日開催された埼玉県在宅医療部会について。昨年度、当協議会では入退院調整ルールを策定し今年 4 月から運用してきたが、ここにきてまだ策定していないところも多いため、県が率先して標準例を作成することとなった。これを受けて、先に策定した当市のルールも一部見直しが発生するかもしれないが、その際には当協議会に諮らせていただく。
谷口会長	<p>質問・意見はあるか。標準例というのは、それをもとにしなければいけない、ということか。</p>
医師会事務局	<p>そういうことでは無いと思うが、標準例として示すのは一応市をまたいでの入退院もあるためと思われる。三郷市の周辺、東部地域は入退院調整ルールができていない状況。今後は近隣市町村との乗合もあるので検討していかないといけないかもしれない。</p>
谷口会長	<p>他の策定済み 9 か所（手引き 6 か所、様式のみ 3 か所）の 6 か所のうち 1 か所は三郷になるわけか。</p>
医師会事務局	<p>そうである。</p>
谷口会長	<p>例えば浦和とか大宮とか有力なところは作っているのか。</p>
医師会事務局	<p>現在策定済は熊谷・行田・さいたま・本庄児玉。策定予定は加須・羽生・幸手・杉戸・北本・所沢・朝霞。様式だけでできているのは川口・戸田。</p>
谷口会長	<p>あまり有力な中心的なところはまだ作っていないからか。</p>
医師会事務局	<p>予定にはなっている。</p>
谷口会長	<p>標準フォーマットに則るのかどうか、というのは三郷もおそらく微妙なところだ。標準にはならないだろうから。</p>
秋葉副会長	<p>内容的には大きな差があるのか。</p>
医師会事務局	<p>とくに大きな差があるわけではないが、三郷も含め策定できているところは全部提出しているので、それを見て検討していただく。ま</p>

	<p>た、草加の新しい保健所長が長野の上田市で取組んでいたもので、それも加味して進んでいこう。</p>
谷口会長	<p>医師会主催の研修会が緩和ケア2回・ACP1回やらせていただく。県の事業として予算が下りているもので、大々的にこういう緩和ケアとかACPのことについて研修をやってくださいというものに則ってやるも。ぜひ皆さん時間があるかたは足を運んでください。よろしく願います。</p> <p>他に質問・意見はあるか。次の報告に移る。</p>
<p>・第55回日本理学療法学会合同学術大会・第7回日本地域理学療法学会学術大会でのパネルディスカッションへの参加について【資料4】</p>	
谷口会長	<p>これは毎年持ち回りで理学療法学会や日本支援工学理学療法学会等々が一緒に学会をやる。それで年ごとに開催県が変わり、2020年の11月7日と8日は埼玉県が当番になっていて、埼玉県立大学が会場予定ということだ。そのうちの日本地域理学療法学会学術大会でパネルディスカッションをやるそうだが、三郷市の取り組みに関してパネルディスカッションでお話ししてもらえないか、という依頼が市の事務局を通じて前年度までいらっしゃった理学療法士の瀧上氏からお話しがあった。断る理由も特にないということで、会としてお引き受けすることにしたという経過がある。</p> <p>榎本委員から依頼内容について説明をお願いします。</p>
榎本委員	<p>日本理学療法士学会の主催において、先程会長からありました通り、2020年11月7日から8日にかけて、私どもの学会を開かしていただく。流れは先程会長からあった通りだが、今回目の大会長を県立大学の井上先生がされていて、地域学会というその中の1つの学会の準備委員長を、前年度まで三郷ケアセンター所属であった瀧上氏が担当している。私はこの学会の広報副部長を担当しているということもあり、このような流れになっている。</p> <p>テーマは「2025年に向けた理学療法の展望～未来に紡ぐ理学療法の連携～」である。専門性を活かすためには、連携が最重要であると考えているため、「地域理学療法学の展開と連携における主眼点」として、理学療法に係わる病期の、いわゆる縦の連携はもちろん必要だが、多職種の横の連携について会員の理学療法士が触れる機会としたい、と大会長の井上から、2017年に三郷市と埼玉県立大学の共催で行った多職種連携の取組みについて、紹介してほしいと話があった。大会長としては、当事者から開始当初から現在に至るまでの活動の流れや、実施してきたこと、課題やそれに対する研修や広報などを発表</p>

	<p>していただきたいとのことである。具体的には、1日目のパネルディスカッションとして時間を設ける。学会自体が1年以上先のことで内容を組み立てている段階ではあるが、これから連携が重要になってくるということで、良い機会にしていきたい。今年12月の学会を参考に内容を検討していくため、現段階では具体的にはお伝えできない。今後各団体ないし協議会を通して、様々な依頼をさせていただくことになる。ご理解ご協力をお願いしたい。</p>
谷口会長	<p>どのようにやるか、どのようなテーマにするか、ということも話してないが、当協議会の医介連携の進み具合から考えると、理学療法の世界だけの話だけでは留まらない。色々な職種がどのように動いているのかを総合的に発表し、その中でどのように理学療法士が活躍すべきか、ということと言えるくらいのスピード、体制でやっていると思うため、そういう観点で話しを進めていけたらよいと思う。</p>
榎本委員	<p>ありがとうございます。先生方・ケアマネジャー・ヘルパー・薬剤師等さまざまな職種のかたにお声掛けすることになるかと思う。ぜひともいい機会にしていきたいと思いますのでよろしく願います。</p>
谷口会長	<p>皆さまよろしいでしょうか。 (一同同意) 予定の議事全てを終了した。事務局に進行をお返しする。</p>
4 事務連絡	
市事務局	<p>議事録は後日郵送。 ・振込予定日：10月15日(火) ・次回の会議日程 令和2年2月6日(木) 13:30~</p>
5 閉会	
秋葉副会長	<p>以上で令和元年度第2回三郷市在宅医療・介護連携推進協議会を終了する。</p>